日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の１　TEL＆FAX　52-3097　2015年６月21日（日）第1503号(1)

民報 ゆうばり

6月議会でくまがい市議質問

高齢独居でも、障がいがあっても安心の住環境を！

6月4・5日の2日間、第2回定例議会が開催されました。5日、くまがい桂子市議の夜間議会での質疑の概要をお知らせします。

◆　◆　◆

市民が安心できる住環境の整備を

質問1　高齢化率48％、世帯の三分の一が高齢者独居の夕張市において、高齢者の安心できる専用住宅などはすべて満室状態。住環境の整備について、現状と課題、今後の政策はえしている。今後も改善していきたい。

質問2　障がいを持った方たちの住環境整備のため、グループホームの建設が必要不可欠であり、先進事例をていねいに調査したうえで、ビジョンを確立し、具体的な計画を持つ事業所などと協同して実現に動き出すべきではないか。

答弁1　合計で7種類13か所の施設や住宅、居住系サービスも整えており、一定程度ニーズにお応を持つ計画の着実な推進を図っていきたい。

答弁2　グループホームの整備促進が必要。先行事例を調査し、具体的な計画

質問3　当別町では「当別式共生型のまちづくり」とテーマに、行政の社会福祉部、社会福祉協議会、地域包括支援センター、ケアプランセンター、特別養護老人ホームの職員など、介護領域に従事する専門家と、障がい者相談支援、就労支援事業所職員新たな高齢者の地域生活支援の在り方を

など障害領域に従事する専門家とが、共生型の支援体制をつくるプロジェクトチームを構築し、障がい分野の柔軟な制度施行と介護の専門家によるケアのアプローチを融合させた取り組みを進めている。子ども、高齢者、障がい者等縦割り横切りにした事業展開ではなく、小規模な町では共生型事業が有効であることや、地域住民の中で支える人・支えられる人を区別なく一住民として役割を担っていく、又、高齢者や障がい者など従来的には「支えられる」人たちの就労を支援し『誰かの役に立つ』生きがいを生み出すこと、そして地域を支える人材を生み出すことーと提案している。このような先進事例をよく調査し、人口減少・少子高齢化の夕張市が安心して暮らせる、障がいがあっても、独居高齢者でも、だれもが住みやすいモデル的な住環境のまちになれるよう期待したいが、市長の考えは。

答弁3　夕張市民には支え合いの精神・システムが文化として構築されてきている。このような強みを行政としてもサポート・充実していくことが極めて重要。当別町も含め、様々な先進事例について、知識を深めた中で、住環境の充実に取り組んでいく。

ー初めて2日間、議会傍聴に行ってきましたー

初日の午前中、行政報告には31名が、午後の一般質問には11名が傍聴しました

２日目の夜間議会には、３８名が傍聴し市民の議会への関心の高さがうかがわれました。

市長執行方針の５つの挑戦（住宅・医療・交通・子育て・資源）をうけ、議長を除く８名の議員全員が、一般質問に立ちました。

市長選・市議選ともに無投票で決まった初めての議会でしたが、財政破たんから９年目を迎えようとしています。

住民自治の発展の観点からは、投票して市長・議員を選出することが大切です。

今回は残念ながら、投票はありませんでしたが、市民は無条件で承認したわけではありません。

行政も議会も市民生活の向上を真剣に考えて仕事をしているのかを、私たちはしっかり見ていく必要があると感じました。（傍聴手記・ｙ）

★日本共産党夕張市委員会へのご連絡・ご相談はお気軽にどうぞ～　Tel/Fax：0123 - 52 - 3097　e-mail：jcp.yubari@gmail.com

「戦争立法」反対 街頭宣伝・署名 いっせい行動

6月14日、沼ノ沢地域において2回目の「戦争立法」反対のいっせい行動が取り組まれました。

5月末から国会において衆院安保法制特別委員会が始まり討論を重ねるごとに憲法違反の正体があぶり出されてきました。

くまがい桂子市議はこの法案の危険性を訴え、沼ノ沢地域の五ケ所で街頭宣伝を行いました。

共産党夕張後援会も同地域の住宅を訪問し、国会請願署名に取り組みました。

署名した人の中には「孫娘の婿さんが自衛隊員なので、この法律が出来たら大変だ、心配している」と話す高齢の夫婦もいました。

くずさんの夕張歴史散歩(28)

労働至誠会の方向を決定づける

片山　潜　来夕

1903年（明治36年）11月4夕張駅に一人の長身の男が降り立ちます。

当時、社会主義運動・労働運動で注目を集めていた「片山潜」その人でした。その頃、片山潜は、改良主義から脱皮しつつ労働組合の組織を訴え全国を遊説していました。明治32年の第1回に次いで2回目の東北・北海道遊説の旅の途上でした。

函館～室蘭、追分を経て、ようやく夕張に着いたのでした。

彼は、南助松はじめ至誠会の高張提灯をかざす面々に迎えられ、市街地3区（今の本町1丁目）、真宗本願寺派万行寺付近（のちに演芸場が建った辺り）で、借家住まいの永岡鶴蔵宅に旅装を解きます。

片山を迎えて南らは社会主義講演会を開催、また全国の社会主義運動や労働運動の状況を聞き学びます。片山もまた、鉱山坑夫の生の現実を知らされ教えられます。

三日間に及ぶこの夕張討議は、片山を中心に坑夫の組織化や労働運動のすすめ方などを熱心に論議します。参加者は、南助松・永岡鶴蔵・高木孤舟・高橋信二（俊六、螺仙とも称す）など労働至誠会の会員たちでした。

彼らによる有意義な討議は、混迷をつづけた労働至誠会にすすむべき方向を定め、勇気と確信を与えました。

北海道の花なり

この夕張滞在の三日間で片山潜は『過去七年間の労働運動を為すも、今度の如く愉快なる時を過ごしたることなし。夕張の諸有志家は実に北海道の花なり』（「労働世界」明治36年11月18日号）と感激の言葉を残しています。この有名な一節は、夕張の労働運動の伝統を明らかに物語っています。

畠山　和也「国会かけある記」
日本共産党衆議院議員

はたやま　和也

こんな理不尽を許せるか

来年の参議院北海道選挙区に、再び森つねとさんが挑戦します。政治革新への若き情熱で、今度こそ国政へ！いわぶち友・比例予定候補との若き二人を、読者のみなさんのお力で押し上げてください。

さて先日、しばらく音信不通だった高校時代の友人から電話がありました。変わらぬ石巻弁につられて私も「んだ、んだ」と話が進むなか、話題は東日本大震災に。仕事で東京にいた彼は被害を免れましたが、実家は津波で流され両親と弟を亡くしました。石巻市役所に勤める同級生は「退職するまで復興の仕事だ」と話していたとか。「国は被災地のことを全然わかっていない。はった、がんばれよ」と励ましました。

ちょうど調査のため、小池晃参議・高橋千鶴子衆議と岩手・宮城を回ったばかり。来年度から被災自治体でも復興事業の一部を負担してもらうとの国の発表に、岩手県知事は「安保法制よりも被災地支援こそ急ぐべきでは」と「戦争法案」をチクリ。石巻市長も「被災規模が大きくて、復興に時間がかかる町ほど負担が増えるというのは理不尽だ」と不満を口にされていました。

被災地負担は「自立に向けて」というのが国の言い分ですが、税金である政党助成金に頼っている政党の方こそ自立してほしい。年金情報さえ守れない政府が、「国民の命を守る」ために「戦争法案」だなんて悪い冗談です。こんな理不尽だらけの安倍政権は、早く退場させるしかありません。